

営農技術情報

発行 令和7年4月24日

第2号

たいせつ農業協同組合

営農部 農産販売課

本所 営農センター 57-2357

支所 営農センター 87-4111

◆本年は日照時間が少なくハウス内温度を確保できないため、発芽までの日数が例年以上にかかっており、被覆資材を剥がすタイミングに困難されていると思いますが、日中に日照が続くと急激にハウス内の気温が上がりヤケ等の被害の可能性が高まります。こまめに温度管理・灌水管理を行い、健苗育成に努めましょう。（「営農技術情報 第1号」と合わせてご確認ください。）

| 日 | 24 (木) | 25 (金) | 26 (土) | 27 (日) | 28 (月) | 29 (火) | 30 (水) | 1 (木) | 2 (金) | 3 (土) | 4 (日) |
|----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|----------|----------|----------|
| 天気 | | | | | | | | | | | |
| 最高 | 19℃ | 13℃ | 11℃ | 9℃ | 12℃ | 10℃ | 12℃ | 18℃ | 17℃ | 19℃ | 17℃ |
| 最低 | 1℃ | 5℃ | 1℃ | 1℃ | 1℃ | 2℃ | 1℃ | 1℃ | 4℃ | 3℃ | 4℃ |
| 降水 | 20% | 70% | 60% | 60% | 40% | 60% | 40% | 40% | 60% | 40% | 60% |

《1.5葉期～移植までの管理ポイント》

| | | |
|---------|--|----------|
| 育苗期間 | 1.5葉期～3.0葉期 | 3.0葉期～移植 |
| 適温 | 20～25℃ | 18～20℃ |
| 換気温度 | 20℃以上 晴天時には外気に慣らす | |
| 温度測定 | 葉先近く | |
| 灌水のポイント | ・早朝、葉先に水滴がなくなったとき ・日中、葉身の展開が悪くなったとき | |

Check

- 温度計は生育状況に合わせて図のように設置しているか。
- 過度の灌水は立枯病や各種病害が発生しやすくなりますので、一回の灌水量は 500～1,000m³/箱を目安に実施しているか。
- ゆめぴりかは 2.5葉期以降、初生葉や 1葉が黄化していたら追肥を行い、栄養向上を図る。

☆育苗期間の病害と対策

◎急激な温度変化や発根不良によって病害の発生が多くなるので注意しましょう。

| 病原菌の種類 | 病状と特徴、見分け方 | 耕種的な防除対策 |
|-----------------|---|--|
| 赤カビ (フザリウム菌) | ・糲を中心に白～淡紅色のカビ発生 ・地際部、根が枯死し、生育不良 ・萎凋、枯死し糲や根が紅色になる | ・過湿状態を避ける ・夜間保温に努める(10℃以下で赤カビ、ムレ苗の発生が多くなる) |
| ムレ苗 (ピシウム菌) | ・急激に葉が巻き針状に萎凋、枯死 ・発生はズボット状、ズボは見られない ・地際部は水浸状褐変腐敗 | ・高温管理を避け徒長させない ・発根促進に努める ・軽度の白カビは、土壤の乾燥で蔓延を防止する。 |
| 白カビ (リリーブス菌) | ・床土表土、糲層に白色のカビ発生 ・蔓延すると発芽、発育不良となり 根は短く、根数も少ない | ・適正播種量を守る。 ・翌年に向けては、土壤を適正な pH へ調整し、排水対策を講じる。 |

| 病害名 | 防除時期 | 処理方法 | 薬剤名 | 希釈倍率 | 使用量 | 使用回数 |
|-------------------------|------------------|----------|------------|-----------|--------------|------|
| 苗立枯病 フザリウム菌 ピシウム菌 | 播種時 又は 発芽後 | 土壤 灌注 | タチガレエースM液剤 | 500～1000倍 | ポット 300 ml/箱 | 1 |
| | | | | | マット 500 ml/箱 | |

※タチガレエースM液剤は使用濃度、使用量が多いと一時生育抑制を起こします。